


# 一宮西部地区かわまちづくり計画

一 宮 市  
令和7年6月

1. 市町村等の概要	
① 都道府県名	愛知県
② 市町村名	一宮市
③ 人口	375,827人(令和7年4月1日時点)
④ 面積	113.82km <sup>2</sup>
2. 河川の概要	
<p>① これまで実施済みの関連施策</p> <p>一宮市は名古屋市から10分と利便性が高く、県内4番の人口38万人を有する市である。一宮市にとって木曾川は産業・文化・定住の核になる資源であり、市は将来都市像の中心に木曾川を据え、まちと自然が交わるトカイナカのまちづくりをすすめてきた。木曾川の水辺は、市民の日常を豊かにし交流の拠点となるポテンシャルがあり、市の北部地区では、一宮北部かわまち事業で国営木曾三川公園と一体になった整備を行った後、市最大の観光入込客数となる観光拠点として市の賑わい、交流促進に大いに貢献している。5月に開催されているいちのみやリバーサイドフェスティバルは14.0万人の入場者数がある。(2023年観光入込客統計)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一宮北部地区かわまちづくり(木曾川水系木曾川、一宮市北部地区、H21~25)                      実施場所: 木曾川水系 木曾川・南派川 一宮市(39.5k~46.8k) 北部地区                      施策目的: 河川利用の推進                      事業期間: H21~H25                      登録年度: H21 かわまちづくり登録                      事業主体: 国、一宮市                      整備内容: 堤防(国)、親水護岸(国)、高水敷整備(国)、散策路等整備(市)                      関連URL:  <a href="https://www.mlit.go.jp/river/kankyo/main/kankyomachizukuri/map/chubu/ichinomiya.html">https://www.mlit.go.jp/river/kankyo/main/kankyomachizukuri/map/chubu/ichinomiya.html</a></li> </ul>	
	
<p>いちのみやリバーサイドフェスティバル</p>	
<p>② 市民や民間事業者による河川利活用状況</p> <p>一宮市西部にある西中野渡船は木曾川最後の渡船である。しかし2025年に新濃尾大橋の開通に伴い廃止が予定されており、地域の人々は、渡船文化の存続のための舟運学習などの取組や舟運文化の保全に向けた活動、要望を行ってきた。また、富田山公園と河川敷でおこなわれる一宮市びさい夏まつりは起水天宮祭に由来する由緒ある夏祭りであり、各種事情による規模縮小などに耐え地域の商工会等の尽力により続けられている。また、一宮市西部地区では、水辺とまちが一体となった美しい景観と、新しいにぎわいを生み出すムーブメントを起こすことをめざしミズベリング138が2017年から立ち上がり、富田山公園を中心に、市民、行政、民間企業が様々な取組を継続している。</p>	

・地域のイベント

事業期間：西中野渡船舟運学習 6 月、一宮市びさい夏まつり 8 月、かしのきフェスティバル 11 月

事業主体：尾西商工会、一宮市、地元自治会

関連 URL：<https://www.138ss.com/event/detail/8/>



びさい夏まつりで賑わう富田山公園



西中野渡船未来予想プロジェクト



かしの木フェスティバル

・ミズベリング 138

事業期間：環境学習（木曾川ミズベの勇者たち）、サイクリングイベント、キッチンカー、キャンプイベントなど各種イベントを富田山公園と連動して通年実施

事業主体：一宮市、ミズベリング 138

関連 URL：[https://www.facebook.com/mizbering138/?locale=ja\\_JP](https://www.facebook.com/mizbering138/?locale=ja_JP)



公園にキッチンカー



SAUNA&BBQ



トミダヤマビーチキャンプ

### 3. かわまちづくりの方針

#### ① 地域における課題、必要性

一宮西部地区の中でも起から富田山公園にかけた水辺は、かつて木曾川と富田山公園を楽しむ人々が大量集まっていた。しかし1976年の木曾川大堰の稼働による湛水、近年の河床の固定化及び樹林化等により砂州が減少し、河川に安全に近づける空間が減り、親水機能は低下し、いつしか川に人が集まらなくなった。富田山公園も宿泊施設やプール等が老朽化し集客力は低下していった。しかし、今でも富田山公園に隣接する河川区域で19.9万人、公園区域で9.8万人と年間約30万人の利用がある。

一宮市では、富田山公園の老朽化した宿泊施設を解体し民間資本を導入して、グランピング・バーベキュー施設が2022年にオープンし、SNSを活用し広域から若い世代を集客しつつある。さらに、2025年から老朽化したプールを解体し新公園を整備するとともに、民間資本を導入した新機能導入を目指している。

しかし、交通利便性が悪く、近隣に大規模な市街地のない富田山公園では、立ち寄り客だけの活性化は難しく、かつてと同じく「楽しいからここに来たい」と思わせる魅力ある親水空間が不可欠である。新公園と民間施設のオープン、また舟運文化を伝えてきた西中野渡船の廃止(2025年度予定)から時間を置かずにかわまちづくりにより木曾川の親水機能を高め、水辺と公園をあわせた木曾川の魅力とにぎわいの再生を目指す。

昔は木曾川は人が集まる川だったけれども、いまは危ない川ということになってしまったので、どうすれば人が集まる安全な川になるだろうかとも考える。(協議会意見)



かつての一宮市西部の木曾川河畔



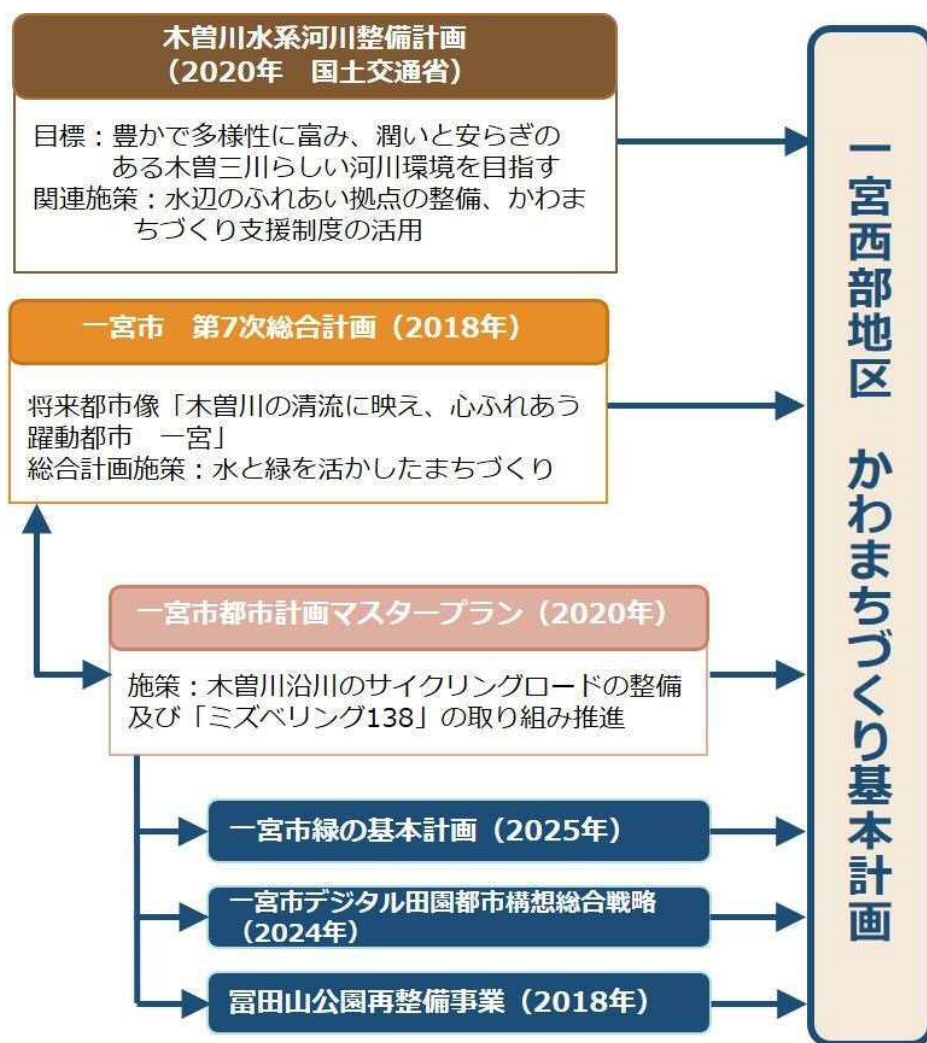
現在のうっそうとした河岸

小さいころ木曾川で遊んだ楽しい思い出がある。小さな魚を釣った楽しさ、富田山の河原でボーイスカウトのキャンプをした思い出。夏の公園はプール、ホテルでにぎわっていた。そのような思い出、にぎわいをかわまちでもどしたい。(自治会長意見)



② 市町村の地域計画や沿川地域のまちづくりの中での河川の位置づけ

- ・一宮市では地域整備構想である「一宮市総合計画」において、将来都市像を「木曽川の清流に映え、心ふれあう躍動都市」と定めている。また「一宮市都市計画マスタープラン」において、木曽川、公園・緑地、社寺林などを結ぶ良好な自然環境を有するネットワークの形成が位置付けられている。関連施策として「一宮市緑の基本計画」において、木曽川沿川の富田山公園の Park-PFI による多様なニーズに沿った都市公園の再整備が上げられているとともに、「一宮市デジタル田園都市構想総合戦略」では、自然と親しめる木曽川沿川の整備や、木曽川沿川の自然を生かした各種イベントやミズベリング 138 より自然環境の豊かさなどをアピールし、人が集まる魅力的な街をつくることが目標として掲げられている。
- ・「富田山公園再整備事業」では、『豊かな自然環境の中で多様な活動の場をはぐくむ、木曽川と地域をつなぐ公園』というコンセプトのもと、Park-PFI 制度を用いた民間活力を導入した施設の整備運営が計画され、整備内容及び事業手法が検討されている。
- ・これらの上位計画・関連計画をうけて、木曽川を活かしたまちづくりを具体的に進めるための計画として、一宮西部地区かわまちづくり基本計画を策定する。



・第7次一宮市総合後期基本計画（R5年策定）

一宮市総合計画基本構想では、将来都市像を「木曾川の清流に映え、心ふれあう躍動都市 一宮」と定めている。2018年に開始となった第7次一宮市総合計画では、一宮市の都市将来像の実現に向けた施策として、「環境教育の推進」、「水と緑を活かしたまちづくり」、「訪れたいまち、交流が盛んなまちづくり」等を掲げている。2023年に開始となった第7次一宮市総合計画後期基本計画（2027年度目標）では、かわまちづくりの関連施策として「施策9 水と緑を活かしたまちをつくります」があげられ、**水辺空間を活用したイベントの参加者数や施設の利用者数の目標数値**が設定されている。

該当箇所：42ページから43ページ

掲載 URL：

<https://www.city.ichinomiya.aichi.jp/sougouseisaku/seisaku/1044355/1000458/1022818/index.html>

Plan 2 快適にくらす

**施策9 水と緑を活かしたまちをつくります**

**現状と課題**

**【現状】**

- 本市は、約18kmにわたって木曾川に接しており、この河川敷を利用した公園や自転車道・遊歩道の整備を近隣市町とともに進めています。
- 緑地の保全と緑地の推進を図るための条例を策定し、緑豊かな都市環境の形成を進めています。

**【課題】**

- 木曾川の豊かな自然や中小河川など、身近に存在する水と緑のオープンスペースを活用した、魅力ある水辺空間の創出が求められています。
- 緑化活動を行う市民への支援が求められています。

資料：一宮市

**事業展開の方向性**

- 水と緑のオープンスペースの整備推進と利活用**  
公園・緑地整備事業、木曾川河川敷公園整備事業、緑道整備事業、ミズベリング138事業
- 民有地の緑化推進**  
入学記念樹配付事業、民有地緑化推進補助事業、緑化推進啓発事業
- 潤いのある美しい緑地の保全と緑化の推進**  
都市公園・街路樹維持管理事業、市民参加による公園管理事業、市民ボランティアによる公園花壇管理事業、花いっぱい運動事業、ホテルも生息できる環境創出事業

**成果指標**

指標名	基準値	目標値
①都市公園等面積	232.70ha	245.54ha
②水辺空間を活用したイベントの参加者数および施設の利用者数	781,300人	945,800人

**市民の体感指標**

指標名	基準値
水と緑に親しめる場やイベントがあると思う人の割合	38.3%

第7次一宮市総合計画後期基本計画より抜粋



「ミズベデカンバイ」2024年7月7日  
出典：ミズベリング138

第7次一宮市総合計画後期基本計画より抜粋

・一宮市都市計画マスタープラン（R2年策定）

2020年に改定された一宮市都市計画マスタープランでは、木曾川、公園・緑地、社寺林などを結ぶ良好な自然環境を有するネットワークの形成が、将来都市構造の方針の一つとして掲げられている。

・ミズベリング138の推進などかわまちづくりの関連した施策の部門別の方針として計画されている。

該当箇所：15ページ3～8行目、19ページ3～6行目

掲載 URL：

[https://www.city.ichinomiya.aichi.jp/\\_res/projects/default\\_project/\\_page/\\_001/035/279/202403\\_02.pdf](https://www.city.ichinomiya.aichi.jp/_res/projects/default_project/_page/_001/035/279/202403_02.pdf)



- ・一宮市緑の基本計画（R7年6月下旬公表予定）

該当箇所：改定中

掲載 URL：

<https://www.city.ichinomiya.aichi.jp/machidukuri/kouenryokuchi/1044367/1064016/1064015.html>

- ・2020年に改定された一宮市緑の基本計画において、一宮市の目指すべき緑の姿として水と緑のネットワーク軸が位置付けられ、下記関連施策が挙げられている。
- ・木曾川を中心とした水辺空間の活用及び環境学習の推進、生物多様性の確保に向けた環境学習及び啓発活動の推進、Park-PFIによる多様なニーズに沿った都市公園（富田山公園）の再整備、サイクリングロードなどの木曾川沿川の「健康づくり」拠点の整備・活用
- ・2025年には、富田山公園のかわまちづくりを位置づけた緑の基本計画の改定が行われる。



一宮市緑の基本計画 緑の将来像（2020）



一宮市緑の基本計画 2025年改定案

### ③ 地域活性化や賑わいあるまちづくりに対する市町村や民間事業者の考え方

#### ◆かわまちづくりの目的◆

## KISOGAWA FUN&FAN

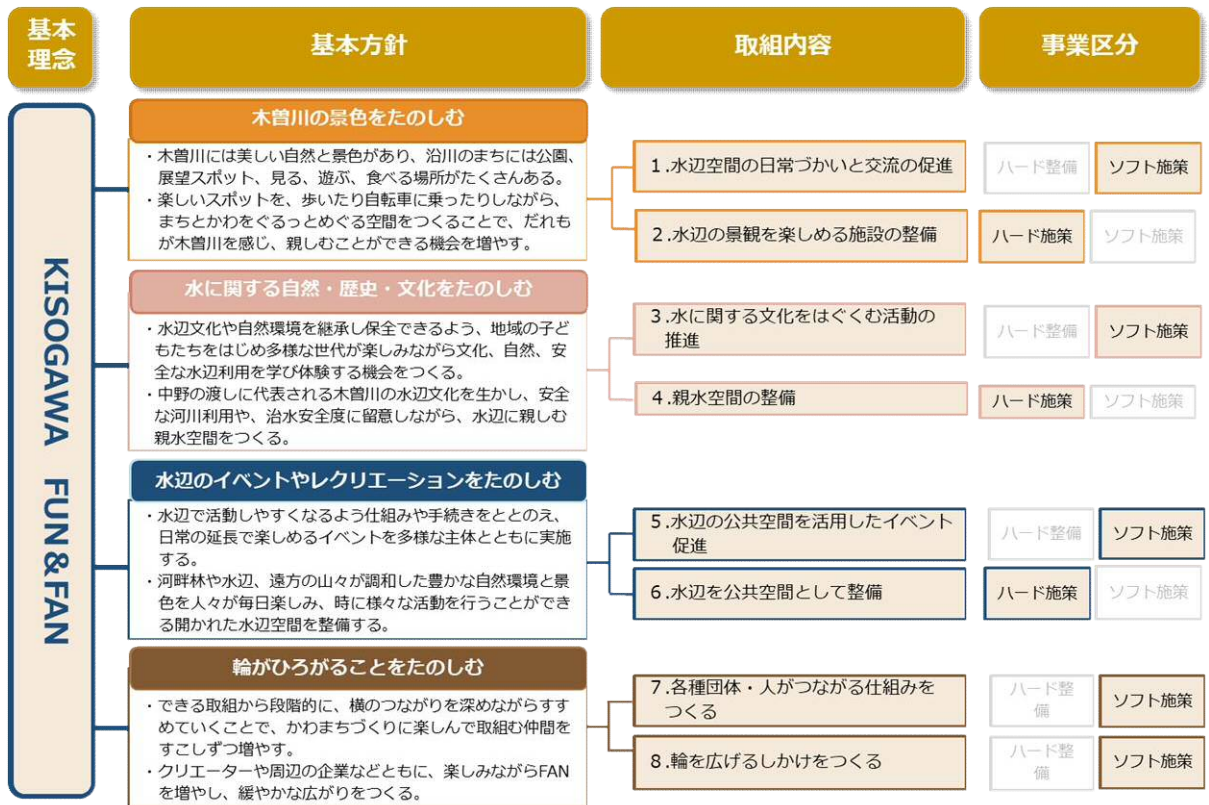
- ・FUN：木曾川の雄大な景色、自然、歴史にみて、ふれて、遊んで、楽しみ（FUN）が増える。
- ・FAN：木曾川を楽しむ人々が集まり、にぎわいの場が広がり、一宮市のファン（FAN）が増える。

一宮市は、木曾川とともに発展してきた地域であり、木曾川がもたらしてくれる多くの恵みを楽しんできた。木曾川と地域が日常的につながる水辺を通して、木曾川を楽しむ人が増え、一宮市の魅力と活力と好きな人が増えることを目指して、かわまちづくりに取り組む。

「かわまちづくり」では「かわ」とそれにつながる「まち」を元気にするため、地域の自然、景観、文化及び都市基盤、地域がつながってきた歴史などの「資源」や地域の「人」「企業」を活かし、一宮市と民間事業者、地元住民等と河川管理者が手を取り合い、地域の「誇り」となるような空間形成を目指す。

#### ◆取組方針

一宮西部かわまちでは、当該地区がもつ4つの資源を「楽しむ」ことを軸にした4方針を作成し、それにもとづくソフト・ハード施策を実施する。



④ 地域活性化や賑わいあるまちづくりに資する定量的目標

- 令和2年時点の当該地区の河川区域の利用者数は、水辺の国勢調査によると19.9万人である。令和6年に実施した一宮市市民アンケートでは、富田山公園と周辺河川区域の利用者は、かわまちづくりの整備により概ね訪問頻度を2倍増やすと回答している。そこで目標値を以下のとおり4万人増として設定し、ソフト施策、ハード施策により、この目標を達成する。

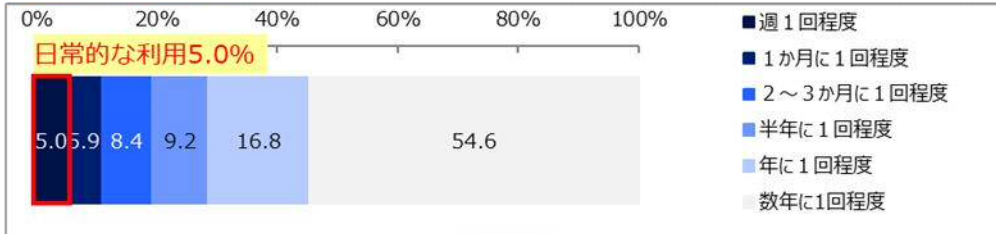
まちづくりに資する定量的目標

指標	従前値	目標値	設定の考え方・測定方法等
河川区域の利用者	199,000人 (R2年)	239,000人 (R12年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>水辺の国勢調査による木曾川左岸31.0~33.0kの利用者から測定する。</li> <li>かわまちづくりにより、日常利用や富田山公園からの移動が増え、散策を中心とした利用者の訪問頻度が現在より2倍になると設定する。訪問頻度の増加は市民アンケートより設定する。</li> </ul>
市民が対象区間を楽しいと認知する割合	10% (R6年)	20% (R12年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>一宮市対象のアンケートから、市民が富田山公園と周辺の水辺が楽しいと考える割合を現況の10%から20%に増やすことを目標とする。</li> <li>目標の設定は類似の河川沿いの公園（大野極楽寺公園）に対する市民の認知度を参照に設定する。</li> </ul>

当該地区（木曾川左岸 31.0～33.0k）の利用者数とかわまちによる集客目標

	高水敷		水面・水際	堤防	合計	改め	集計期間
	スポーツ	散策・その他	水遊びその他	散策・その他			
現状	159,288	28,637	123	11,311	199,359	<b>199,000</b>	2020年
目標	159,288	57,274	246	22,622	239,430	<b>239,000</b>	2030年開業直後
増加	0	28,637	123	11,311	40,071	<b>40,000</b>	

現在の訪問頻度



整備後の訪問頻度



かわまちづくり整備による訪問頻度の変化（市民アンケートより）

かわまちによる集客の目標増 40,000 人は日常利用者を対象とすることとし、日常づかいを対象としたソフト・ハード施策により実現するものとする。特に親水空間と高水敷で日常を楽しく、交流を促進するコンテンツを推進、整備することで河川空間の来訪者の訪問を促し、さらに河川空間から富田山公園との移動により相互の価値を高めることを目指す。

ソフト施策	ハード施策	各施策の実施による集客目標
<b>◆日常利用</b> <b>1. 水辺空間の日常づかいと交流の促進</b> ・カフェ・ランチ ・ドッグラン ・デイキャンプ ・ラン・ウォーキング・サイクリング スポーツ	<b>2. 水辺の景観を楽しめる施設の整備</b> 裏腹付け盛り土 ドッグラン 芝生広場、ウッドデッキ、木陰 多目的広場、遊歩道、ベンチ、サイクルスタンド、案内板、フォトスポット	カフェ = 3,000人 ドッグラン 2000組×3回 = 6,000人 散策・ラン = 10,000人 サイクリング増 = 3,000人 デイキャンプ = 100人 <b>小計 22,100人</b>
<b>◆日常利用</b> <b>3. 水に関する文化をはくくむ活動の推進</b> ・環境学習 ・日常的な親水体験 ・舟運文化・歴史の継承 ・水辺と公園の交流促進	<b>4. 親水空間の整備</b> 緩傾斜の親水護岸 裏腹付け盛り土、堤防側の階段、遊歩道	環境・舟運学習 600人 親水体験 2,000人 水辺と公園の交流 新公園 8,800人 既存公園 7,000人 <b>小計 18,400人</b>

→かわまち施策による日常利用者増 合計 40,500 人→約 40,000 人

- ・水辺のイベントの開催による集客は到達目標の追加として位置付ける。富田山公園やミズベリング138の類似イベント、協議会の意見から以下の通りを目指す。

ソフト施策	ハード施策	各施策の実施による集客目標
◆イベント利用 7. 水辺の公共空間を活用したイベント促進 既存イベント活性化 新規イベント（マルシェ・ライブ） まちからの交通・移動対策 安全対策	2. 水辺を公共空間として整備 芝生広場・トイレ改修 高水敷に降りる斜路 交差点安全対策、低木など親水空間安全対策	既存イベント 夏祭り増 1,000 ウォーキング・ラン 3,000～ サイクリング 600 新イベント ライブ 2,000 マルシェ（春・秋） 1,000 犬マルシェ 500
		<b>合計8,100人</b>

- ・集客目標はかわまちづくり協議会内で、協議会委員である公園内の民間施設運営者、イベント企画者等と重点的に議論し、また市内の類似事例を参照し検証した。以下協議会意見を抜粋する。

- ・ウッドデザインパークの西側の敷地については現在利用していないが、再整備によってウッドデザインパークの西側に魅力があるのであれば、連携することで2,000人程度（施設利用の1/5）の利用者を見込めるのではないかと考える。（民間施設運営者）
- ・公園施設の利用者のうち10人に1人が河川敷に来てくれると想定している（民間施設運営者）」
- ・過去ランニング・マラソン大会の集客は2,000～3,000人程度だった。他の市と比べて少ない。走れる環境があるのに、もったいない。（トライアスロンクラブ事務局長）
- ・一昨年の富田山公園でのイベント（犬マルシェ）は一日500～600人参加。（イベント企画者）

#### 4. 推進体制・取組内容

##### ① 協議会、運営組織等の体制

- ・かわまちづくり計画の検討にあたり、市役所内WSでアイデア案を作成したのち、一宮西部地区かわまちづくり協議会を開催し検討をおこなった。協議会は地元自治会、富田山公園で活動する市民団体や企業、サイクリング及び舟運関係、一宮市をメンバーとし、河川管理者をオブザーバーとして迎え、かわまちづくりにむけた課題、基本理念から、ハード整備、目標等について議論し、一宮西部地区かわまちづくり基本計画（素案）を作成した。また委員とともに社会実験を行い実現性の検証を行った（その他特筆すべき事項に記載）。

##### 関係者との連携・調整の場となる組織と委員構成

名称	分野	団体名
一宮西部地区 かわまちづくり協議会	地域住民	朝日連区（地元自治会）
	地域住民	大徳連区（地元自治会）
	利活用	タキドキ
	利活用	TOKINTOKIN
	民間事業者	ウッドデザインパーク（株）
	団体活動	尾張トライアスロンクラブ 事務局長
	商工・環境	（一社）全国小型船舶教習所連合会中部支部
	生態系他	木曽川水系イタセンパラ保護協議会一宮市活力創造部博物館
	事務局	一宮市まちづくり部
	河川管理者	木曽川上流河川事務所（オブザーバー）

## かわまちづくり協議会の開催経緯

協議会	日程	主な議題
第1回	令和6年3月19日	一宮西部地区における課題、協議会の目標、進め方、かわまちづくり計画立案の骨子
第2回	令和6年6月6日	かわまちづくりの基本理念・基本方針について かわまちづくりの取組内容、かわまちづくりでめざす目標
第3回	令和6年9月11日	水辺拠点に必要な設備と考慮すべき観点、特に安全性について、地域で運営するために必要な推進体制、現地での安全確認
第4回	令和6年11月18日	訪問者数の増加に関する取組、特に日常利用者の増加にむけて、認知度向上の取組について



開催風景

- 協議会では、まず地域活性化にむけたまち・かわ双方の課題について整理し、交流する場が少ないこと、特に若い世代の地域への興味が薄いことがまちの課題としてあげられた。しかしそれぞれの世代で、木曾川に関する思いを大切にしていた。そこで10年後の実現したい利用のイメージを作成したうえで、理念、取組方針、取組内容、ソフト施策、ハード施策を検討していった。以下、協議会での代表的な意見の抜粋と取組内容への反映の対応、作成したイメージ図を示す。

まちづくり・かわづくりの 観点からの課題・思い（抜粋）	取組内容への反映
若い世代が集うような場所が少なく中学生くらいになると外にでてしまう。一宮北部かわまち地区は市で最も人が集まっているが、子ども向けの施設が多いため、地域の若者・大人世代が日常的に集まれる場が必要である。	1.水辺空間の日常づかいと交流の促進 →景色を楽しめるカフェの誘致、 2.水辺の景観を楽しめる施設の整備 →腹付け盛り土上のカフェ、ドッグランなど大人向けの日常を楽しむ施設の整備
小さいころ木曾川で遊んだ思い出がある。小さな魚釣った楽しさ、河原でボーイスカウトのキャンプをした思い出を大切にかわまちづくりを実現していきたい。水辺に近づける場所はサイクリングロードでも少ない。背景に白転車で写真をとると、人も訪れ、SNS発信にもつながる。	3.水に関する文化を育む活動の推進 →環境学習、日常的な親水体験、舟運文化の継承など 4.親水空間の整備 →緩傾斜護岸の整備、水辺近くの遊歩道整備
一宮ではイベントが少なく楽しみが少ない。市民主体で市に相談しながら、さまざまなイベントを企画している。しかし例えば富田山の高水敷で野外ライブを企画したが、申請等で手間取り、開催できない、トイレなど各種施設に問題があるなど課題がある。	5.水辺の公共区間を活用したイベント促進 →ライブイベントなど新たなソフト事業、都市・地域再生等利用区域の指定、手引き作成 6.水辺を公共空間として整備
富田山は山・川・橋・空・夕日 全ての風景を楽しめる。木曾川の夕日が好きだけれども、人々が訪問する行動までつなげるには伝え方の工夫が必要である。	7.各種団体・人がつながる仕組みをつくる →各種協議会を内包し理念を共有するFUNFANの会 8.輪が広がるしかけをつくる →HP、SNS、FAN CLUB等



堤防の上から望む花火

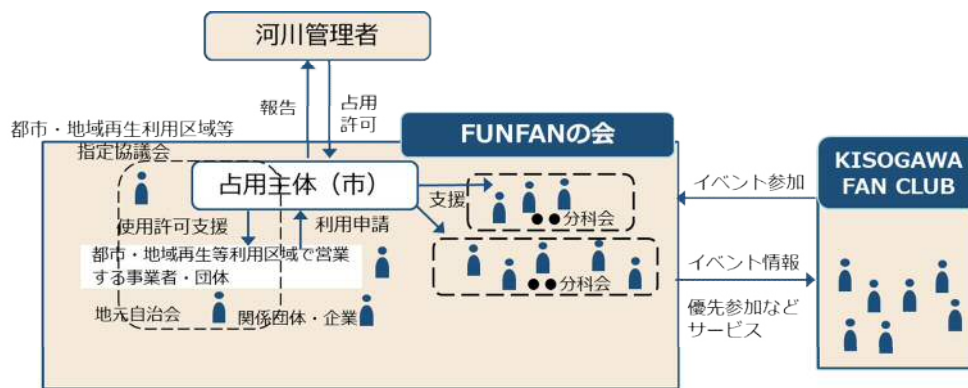


野外ステージでのライブ



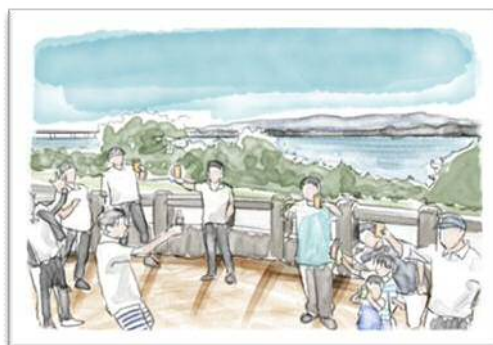
川の景色を見ながらサイクリング

- ・かわまちづくり登録後はかわまちづくり協議会を母体に「FUNFAN の会」を立ち上げる。参加者は現協議会を中心に、河川区域の活用を検討する事業者（イベント、官民連携施設、関係事業者）、クリエイター、市民有志等を想定する。



運営組織等の体制（図）

- ② 地域活性化や賑わいあるまちづくりに資する多様な関係者との連携・取組内容
- ・FUNFAN の会の内部で都市・地域再生等利用区域等指定協議会を組織し、都市・地域再生等利用区域の検討を行う。
  - ・当該区域で経済活動を行う事業者やイベントの企画者、富田山公園内の事業者は FUNFAN の会に加入し、理念を共有してともに木曽川を発展させることとする。特区利用に関しては、利用を補助する手引き等は作成する。
  - ・将来的に、持続的な運営をめざし、都市・地域再生等利用区域の運営、かわまちエリア及び富田山公園全体のマネジメント・維持管理を行う指定管理等の導入を目指す。
  - ・楽しみながら FAN を増やし、緩やかな広がりを作るとともに、固定客（FAN）を増やすことを目的に KISOGAWA FAN CLUB を立ち上げる。
  - ・富田山は公園とかわまちづくりのわかりやすい HP の作成、市の広報誌やミニコミ誌などの活用により市民周知を図るとともに、SNS（インスタ）の活用とインスタグラマーとの連携により市内外への周知を図る。



楽しみながら仲間を増やす



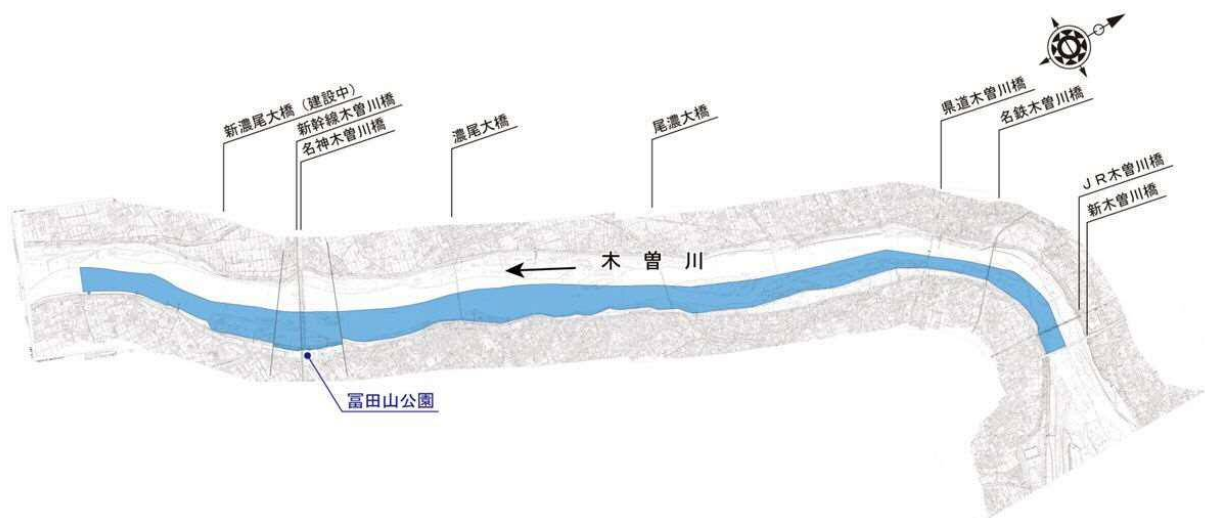
インスタグラマーとの連携

### 5. 安全な河川利用に向けた取組

- ・ 河川利用者の安全確保に向けて、以下の者が、運営組織のメンバーに参画し、安全面での指導及び安全確保を行う体制を構築することを目指し一宮市が中心となって人材育成を行う。
  - 1) 水辺の体験活動に関する指導者（川に学ぶ体験活動協議会川の指導者認定者 等）

### 6. 都市・地域再生等利用区域の指定に関する取組

- ・ 富田山公園の堤防上と高水敷では、民間事業者によるオープンカフェの設置、マルシェの開催、ドッグラン運営、ライブイベント開催等の利用を想定しているため、河川占用敷地許可準則第 22 条に基づく都市・地域再生等利用区域の指定に向けて、一宮市、民間事業者、河川管理者等からなる協議会を開催し、社会実験の実施を通じて、課題を明らかにしながら、河川敷地を利用する区域、施設、主体、期間について地域の合意形成を図る。
- ・ 都市・地域再生等利用区域の指定範囲はかわまち申請区域の河川区域に加え、渡船利用による水面利用も想定して市域の水面を指定することを想定する。
- ・ 指定にあたっては、利用者向けの手引きを作成し、利用者が他の許認可もまとめて確認できるようにする。



都市・地域再生等利用区域の範囲（案）

## 7. 生物の生息・生育・繁殖の場の保全・創出に関する取組

- ・木曾川では、希少な動植物の生息の場となっているワンドの減少が課題となっている。当該地区では親水護岸の整備にあたっては、ワンドから一定の距離をおき整備することで、生態系への影響を減らし、保全を図るとともに、階段形状の親水護岸を整備し、砂州をつたってワンドへ至る移動経路を整備することで身近に河川の自然観察を行うことができる空間として利用促進を図る。また砂州においても環境学習を積極的に行う。
- ・当該地区の下流ワンドに生息する希少な生物のなかには、外来種や、交雑種の放流、密漁など、河川の利用者に由来する行動のために生息の危機に瀕している種も少なくない。現在開催している木曾川ミズベの勇者たちを発展させ、子どもだけでなく大人も含む全年代へ対して木曾川の生態系に関する環境教育を行うこととする。



木曾川ミズベの勇者たち

ソフト施策の個別施策計画書

<p>1. 河川名</p> <p>① 木曽川水系木曽川</p>											
<p>2. 施設の実施範囲</p> <p>① 木曽川 富田山公園付近 (木曽川左岸 31.6k~32.4k)</p>											
<p>3. 施設概要</p> <p>① 木曽川 富田山公園付近 (木曽川左岸 31.6k~32.4k)</p> <p>◆水辺空間の日常づかいと交流の促進</p> <p>河畔林や水辺、遠方の山々が調和した豊かな自然環境と景色を楽しむ空間のなかで、市民が日常的に木曽川を感じ、親しむことができる機会を増やす。河川区域で日常の利用、立ち寄りにつながり交流を促進する普段づかいのコンテンツを充実させ、公園と連動した賑わい、消費を促進する。</p>											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規：カフェ・ランチ</td> <td>市水辺の景観を楽しめる堤防上に移動可能なカフェを設置し、市民からの利用ニーズ、特に女性や若者などの未利用者ニーズにこたえ、河川と公園の最大限の利用促進を図る</td> </tr> <tr> <td>新規：ドッグラン</td> <td>ドッグランを開設し、ペットによる飼い主同士の横のネットワークやコミュニティづくりの力による交流促進を図るとともに、特に秋から春までの利用促進を図る。また公園側と連携して、イベントを開催し日常利用を促進する</td> </tr> <tr> <td>新規：デイキャンプ</td> <td>高水敷の芝生広場やウッドデッキでデイキャンプを自由に行えるよう仕組みを構築する</td> </tr> <tr> <td>発展：ラン・ウォーキング、サイクリング、スポーツ</td> <td>タワーパーク138マラソンの延伸や、初心者に参加できるようなサイクリングイベントなど、沿川かわまちや木曽川中流域かわまちと連携した、ラン・ウォーキング・サイクリングイベントを開催する。富田山公園のサイクリングの中継基地機能を案内の充実などにより促進する。現在行われているスポーツ活動の継続と発展を図る</td> </tr> </tbody> </table>	項目	内容	新規：カフェ・ランチ	市水辺の景観を楽しめる堤防上に移動可能なカフェを設置し、市民からの利用ニーズ、特に女性や若者などの未利用者ニーズにこたえ、河川と公園の最大限の利用促進を図る	新規：ドッグラン	ドッグランを開設し、ペットによる飼い主同士の横のネットワークやコミュニティづくりの力による交流促進を図るとともに、特に秋から春までの利用促進を図る。また公園側と連携して、イベントを開催し日常利用を促進する	新規：デイキャンプ	高水敷の芝生広場やウッドデッキでデイキャンプを自由に行えるよう仕組みを構築する	発展：ラン・ウォーキング、サイクリング、スポーツ	タワーパーク138マラソンの延伸や、初心者に参加できるようなサイクリングイベントなど、沿川かわまちや木曽川中流域かわまちと連携した、ラン・ウォーキング・サイクリングイベントを開催する。富田山公園のサイクリングの中継基地機能を案内の充実などにより促進する。現在行われているスポーツ活動の継続と発展を図る	
項目	内容										
新規：カフェ・ランチ	市水辺の景観を楽しめる堤防上に移動可能なカフェを設置し、市民からの利用ニーズ、特に女性や若者などの未利用者ニーズにこたえ、河川と公園の最大限の利用促進を図る										
新規：ドッグラン	ドッグランを開設し、ペットによる飼い主同士の横のネットワークやコミュニティづくりの力による交流促進を図るとともに、特に秋から春までの利用促進を図る。また公園側と連携して、イベントを開催し日常利用を促進する										
新規：デイキャンプ	高水敷の芝生広場やウッドデッキでデイキャンプを自由に行えるよう仕組みを構築する										
発展：ラン・ウォーキング、サイクリング、スポーツ	タワーパーク138マラソンの延伸や、初心者に参加できるようなサイクリングイベントなど、沿川かわまちや木曽川中流域かわまちと連携した、ラン・ウォーキング・サイクリングイベントを開催する。富田山公園のサイクリングの中継基地機能を案内の充実などにより促進する。現在行われているスポーツ活動の継続と発展を図る										
<p>堤防のカフェから望む花火</p> <p>MINI犬市場 (2023年富田山)</p> <p>きそがわりバーサイドライト</p>											

◆水に関する文化をはぐくむ活動推進

かわまち地区には大規模なワンドがあり、イタセンパラをはじめとしたワンド環境に適した希少種が多数生息している。しかし樹林化が進みワンドへのアクセスが難しく、ワンド環境保全のために重要な環境学習の実施は難しい状況にある。親水空間を整備し、砂州沿いにアクセスできるようにし、体験型の環境学習の充実を図る。また木曾川の親水空間と川面の景色は、富田山とかわまちの主要コンテンツであり、ハード整備と連携しながら親水体験、景色を楽しむ体験の提供を促進する。

また西中野渡船など舟運文化を未来につなげるため、舟でかわまち地区と西中野渡船や起を回遊し、楽しみながら学ぶ機会を継承する。

項目	内容
発展：希少なワンドを中心とした環境学習	親水空間をもうけ砂州で多様な世代に向けた環境教育を行う。下流にある希少なワンドの生態環境については、上流砂州からワンドに移動する経路をつくりアクセスできるようにする。
新規：日常的な親水体験	高水敷から砂州へのアクセス路を設け、公園利用者がかわまちの利用者が親水体験を砂州で日常的に行えるようにする。
発展：舟運文化・歴史の継承	西中野渡船を結んだ舟運学習、舟運イベントの継続、発展を行う。また上流の起・美濃路と結んだスタンプラリーの継続を図る。
新規：水辺と公園の交流促進	川面の美しい景色を望むことができる空間を公園利用の重要なコンテンツとし、高水敷から川面を楽しめる経路、歩道等を利用できるようにする。またSNSを経由した集客等を促進する。



木曾川ミズベの勇者たち



砂州から親水活動

グランピング施設の顧客ニーズに、水に触れられる環境がある。ひざ下まで入れるとよい(施設経営者)

川ぞいに自転車でいけるとよい。写真映えすればSNSで広がり、自転車系のインフルエンサーも来る(自転車経営)

親水空間・景色の集客



渡船を使った舟運学習

◆水辺の公共空間を活用したイベント促進

様々な活動を行うことができる開かれた水辺空間で、日常的に楽しめる規模のイベントを多様な主体とともに実施することで、地域のブランド構築をはかる。そのために多様な人々や組織・地域の企業・団体が、水辺で活動しやすくなるよう都市・地域再生等利用区域の指定をはじめとした仕組みや手続きを整えるとともに、イベント時の交通対策を交通事業者の協力も得て実施する。

内容	項目
発展：伝統的なイベントの継承と発展	起の水天宮川祭り、濃尾大花火から継承されたびさい夏まつりの継承と発展を、商工会議所等とはかる
新規：ライブイベントやマルシェなどあらたなソフト事業	手続き上の課題で実施できなかった高水敷の芝生広場を利用したライブイベントや公園区域内だけで開催されているマルシェを、堤防上や高水敷も活用し公園内の民間施設管理者等とともに開催する
発展：街中と水辺拠点を結ぶ公共交通の臨時運行	びさい夏まつり等で運用されている臨時の公共交通を発展させるとともに、高水敷を臨時の駐車場として活用させるなど集客時の交通に関する課題解決を図る
新規：水辺で活動しやすくする仕組み	都市・地域再生等利用区域の指定を行うとともに、利用の手引きを作成、様々な申請のワンストップ窓口を市で開設する。さらに親水利用における水辺の安全確保を行う体制を確保する。



民間施設からみえるびさい夏まつり



ライブイベントのイメージ



富田山公園のマルシェ



イベント時の臨時バス

また、周辺のまちとのつながりを発展させるため、サイン・マップ・スタンプラリーなどまちや関連地区との回遊性向上をはかる取組を継続して実施する。



美濃路をつなぐスタンプラリー



ハード施策の個別整備計画書

<p>1. 河川名</p> <p>① 木曾川水系木曾川</p>
<p>2. 整備範囲</p> <p>① 木曾川 富田山公園付近（木曾川左岸 31.8k~32.4k）</p> <p style="text-align: center;">（全体位置図）</p> 
<p>3. 整備内容</p> <p>① 木曾川 富田山公園付近（木曾川左岸 31.8k~32.4k）：</p> <p>ハード施策は以下の施策を実施する。 親水護岸（国）、裏腹付け盛土（市）、芝生広場（市）、ドッグラン（市） 他</p>  <p>水辺と公園の移動導線</p> <p><b>水辺の景観を楽しめる施設の整備</b> 芝生広場、ウッドデッキ、木陰 多目的広場、遊歩道、ベンチ、サイクルスタンド、案内板、フォトスポット</p> <p><b>親水空間の整備</b> 堤防側の階段、遊歩道</p> <p><b>水辺の景観を楽しめる施設の整備</b> 公園側の裏腹付け盛土 芝生広場、ウッドデッキ、木陰</p> <p><b>水辺を公共空間として整備</b> 高水敷における斜路</p> <p><b>水辺の景観を楽しめる施設の整備</b> 交流を促進するドッグラン</p> <p><b>水辺を公共空間として整備</b> 芝生広場の整備、トイレ改修 安全対策</p> <p><b>親水空間の整備</b> 階段形状の親水護岸</p> <p style="text-align: center;">かわまち申請範囲</p>

#### ◆水辺の景観を楽しめる施設の整備 ①腹付け盛土

##### ○現状

- ・市民からの河川区域の利用としてカフェ・ランチのニーズが最も高い。しかし流下能力の阻害をしないようにする必要があるので建物等は整備できない。

##### ○整備内容

- ・川、伊吹山、夕焼けの見晴らしがよい堤防の新公園側に腹付け盛土を設置し、堤防上にトレーラーハウス型のカフェを設置する。
- ・裏腹付け盛り土の公園側は公園一体的に整備する。

##### ○効果

- ・木曾川の美しい景色を、寒暖や天気の影響を受けずに楽しむことができ、市民の日常の憩いや交流の場を増やし、河川区域や公園施設への滞在時間も増やすことができる。カフェはまだ公園に来たことがない市民、中でも女性や若者のニーズが高く、現在訪問が少ない新たな層への訴求効果がある。
- ・公園と川との回遊性が高まり、公園に訪れた人が楽しむ選択肢が増える。
- ・副次的効果として堤体の強化につながる。



腹付け盛土（公園側）のデザインと現況



堤防からみる夕焼け

#### ◆水辺の景観を楽しめる施設の整備 ②日常使いを促進する施設

##### ○現状

- ・日常づかいを促進する設備が不十分で、水辺で交流しあう仕掛けに欠けている。しかし犬を散歩させる人は多く、公園区域でのドッグイベントも集客している。
- ・現在は水辺により近い場所できつろぐ設備や仕掛けがない。しかし流下能力の阻害をしないようにする必要があるので建物等は整備できない。
- ・138タワーパークからサリオパークまでのサイクリングロード（20km程度）の間に休憩地点がないため、富田山公園は木曾川周回のための拠点となりうる。しかし木曾川沿川の回遊のための休憩施設の整備、情報の掲示などがされていない。

##### ○整備

- ・対象区間の高水敷のドッグラン（1,500m<sup>2</sup>程度）を整備する。
- ・水辺の遊歩道を整備するとともに、公園からの主導線の水際到達点にウッドデッキを配置しディキャンプ等に利用する。
- ・サイクルスタンド等の利用促進のための整備、案内板や道しるべ、フォトスポットとなるモニュメントを整備する。

##### ○効果

- ・ドッグランは、飼い主のネットワークによる集客と交流を促進し宣伝効果が期待できるとともに、冬季など利用者が少ない時期の集客に貢献する。
- ・公園から高水敷、水辺をつなぐ動線の先にウッドデッキを配置することで、水辺に人を呼びやすくするとともに、公園・高水敷双方の利用を促進する。ディキャンプの利用により滞在時間の増加や交流の場としての活用も期待できる。
- ・サイクリングの拠点機能を充実させることで、木曾川サイクリングロードが利用しやすくなり、木曾川中流域かわまちづくりとの相乗効果が発揮される。



ドッグラン（大野極楽寺公園）



デイキャンプの利用イメージ



サイクルスタンド（社会実験）



フォトスポット（イメージ）

#### ◆親水空間の整備

##### ○現状

- ・かわまち地区には大規模なワンドがあり、イタセンパラをはじめとしたワンド環境に適した希少種が多数生息している。しかし樹林化が進みワンドへのアクセスが難しく、ワンド環境保全のために重要な環境学習の実施は難しい状況にある。
- ・木曾川の親水空間と川面の景色は、富田山とかわまちの主要コンテンツであり、利用者のニーズも高いが、低水護岸が未整備で近づくことはできない。親水空間が整備されておらず水辺に近づけないことは公園の利用者アンケートでも課題であるとされている。
- ・SUPなどの水面利用について社会実験で検証した際は、やぶを伐採してから整地し、さらに仮設斜路を設置して実施した。水面利用のニーズは高いものの、現在は常時はできない状況にある。
- ・富田山公園や駐車場から高水敷へ安全に移動できる階段は1つのみで、河川空間と公園施設を有効に活用するには導線が必要である。

##### ○整備

- ・水際の砂州における階段形状の親水護岸を整備したうえで、高水敷を周回する遊歩道を整備し、木曾川を楽しむ親水空間を整備し、体験型の環境学習の充実を図る。
- ・新たに整備する公園と河川をつなぐ堤防に裏腹付け盛り土し堤防上の空間をつくとともに、堤内地側にのみ階段がある場所に堤外地側の階段を整備する。

##### ○効果

- ・親水護岸から砂州に降りることができるようになり、環境学習、親水空間の利用を日常的に行うことができる。また川沿いの遊歩道から川表の美しい景色を日常的に楽しめるようになる。
- ・公園施設の利用者のある水辺利用のニーズにもこたえ、公園側の付加価値や集客、経済効果を高めることができる。川を近くで楽しめる場所は少なく写真にも映え、拡散することができる。
- ・親水護岸の下の砂州は、西中野渡船を結んだ舟運学習の際の乗降に活用もできる。



砂州から親水活動（臨時の板）

グランピング施設の顧客ニーズに、水に触れられる環境がある。ひざ下まで入れるとよい（施設経営者）

川ぞいに自転車でいけるとよい。写真映えすればSNSで広がり、自転車系のインフルエンサーも来る（自転車経営）

親水空間・景色の集客



現在の公園からの唯一移動階段



現在の近づけない水際



親水護岸の整備イメージ

#### ◆水辺を公共空間として整備

##### ○現状

- ・現在高水敷はすべてグラウンドとなっている。スポーツの利用が盛んであるが、スポーツ以外の利用が難しい。
- ・河川区域から公園をつなぐ導線にあるトイレは古く、河川区域から遠い。公園内に新しいトイレがあるが案内が無くわかりにくいいため、イベント時は古いトイレが混雑している。
- ・河川敷と自転車道のあいだには段差があり、高水敷に車をおろして止めるのが難しい。また公園から河川敷に移動する歩道と自転車道が交差しており危険である。

##### ○整備

- ・グラウンドは生かしつつ、高水敷の半分を芝生広場として整備する。
- ・古いトイレを改修するとともに、新しいトイレの案内板などを設置する。
- ・自転車道と高水敷のあいだに斜路を設置する。自転車道と遊歩道の交差点部安全対策を行う。

##### ○効果

- ・スポーツによる集客は確保しつつ、芝生広場で交流、あそび、散策、イベントなど多様なレクリエーションを楽しめる。
- ・トイレを改修することで、日常利用、イベント時双方で利用者の利便性を向上させる。
- ・既存の歩道から高水敷に降りる斜路を設置することで、高水敷の一部をイベント時、臨時駐車場として利用できる。
- ・交差点部の安全対策をすることで自転車利用者も歩行者も安心してレクリエーションを楽しむことができる。



現況のグラウンド



かわまちの芝生で遊ぶ（太田川）



老朽化した堤外地のトイレ

以上のソフト施策、ハード施策のメニュー実施により実現を目指す効果は次頁のとおりである。

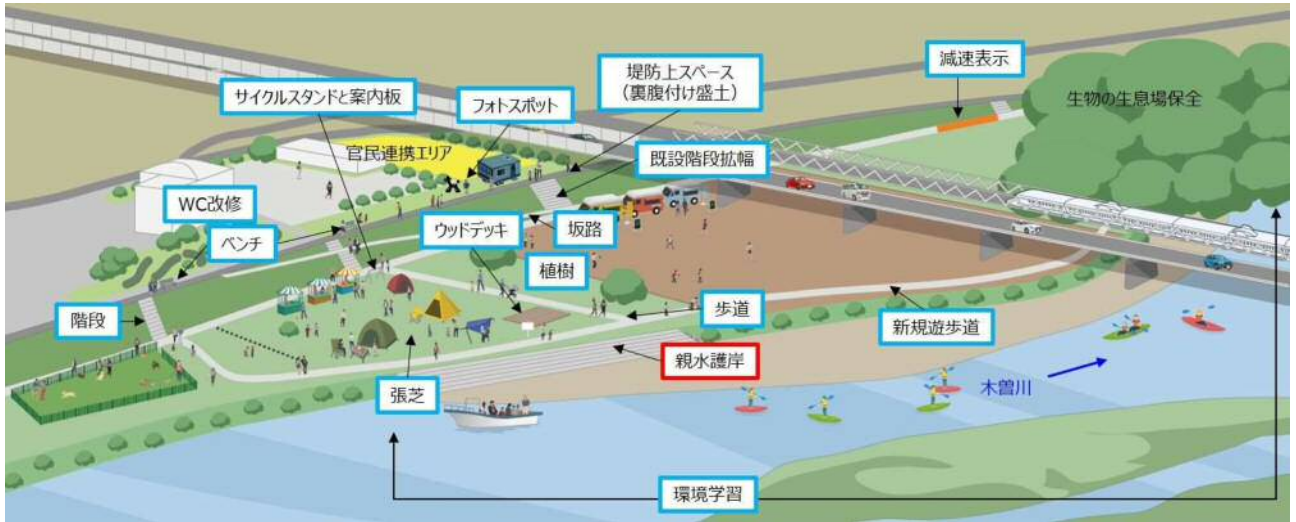
ソフト・ハード施策の対応及び必要性・効果の一覧表

ソフト施策のメニュー	ハード施策のメニュー	治水・維持・利活用での必要性と効果
<b>1.水辺空間の日常づかいと交流の促進</b>	<b>2.水辺の景観を楽しめる施設の整備</b>	
カフェ・ランチ	裏腹付け盛り土	現在未訪問の若手・女性への集客・交流促進 副次的効果として堤体の強化
ドッグラン	ドッグラン	河川区域や公園施設への滞在回数・時間増加 集客、交流促進（秋から春）
ディキャンプ	芝生広場、ウッドデッキ、木陰	河川区域や公園施設への滞在回数・時間増加 集客、交流促進（春から秋）
ラン・ウォーキング・サイクリング、 スポーツ	多目的広場、遊歩道、ベンチ、サイクルスタンド、 案内板、フォスポット	木曽川サイクリングロードの利用促進
<b>3.水に関する文化をはぐくむ活動の推進</b>	<b>4.親水空間の整備</b>	
環境学習 日常的な親水体験 舟運文化・歴史の継承	階段形状の親水護岸	環境学習、親水体験の促進、舟運学習の補助
水辺と公園の交流促進	裏腹付け盛り土、堤防側の階段、遊歩道	公園の付加価値や集客、経済効果向上
<b>5.水辺の公共空間を活用したイベント促進</b>	<b>6.水辺を公共空間として整備</b>	
既存の伝統的イベントの継承と発展 ライブイベントなど新たなソフト事業	芝生広場整備・トイレ改修	水辺空間を活かした市民の日常を豊かにする レクリエーションの提供 トイレ改修による利用者の利便性向上
公共交通の臨時運行など交通網の解決	高水敷におりる斜路	公共交通を補足するため高水敷を臨時駐車場 として活用できるよう斜路を設定
水辺で活動しやすくする仕組み	遊歩道の交差点安全対策、水辺の低木など	自転車と歩行者の交差点の安全性向上 親水利用空間の安全性向上

・ 平面図

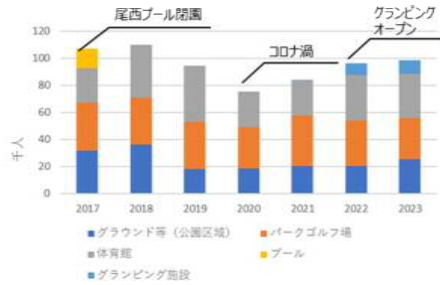


・整備のイメージ（パース絵）

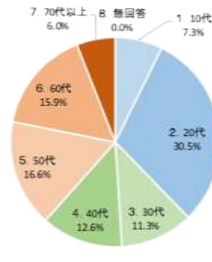


#### 4. 整備の実現方策

- ・関連事業の整備計画
- ・かわまちづくり対象地区に隣接する富田山公園は面積 9.4ha（東京ドーム 2 個分）を有する市管理の堤内地の公園で、体育館、パターゴルフ、グラウンドゴルフ、パークゴルフ、テニスコート、野球場などのスポーツ施設が充実し、地域住民のスポーツ・レクリエーション等の交流の場となっており、2023 年の年間利用者は 9.8 万人（公園区域）である。
- ・2018 年から河川を活かした賑わい創出を目的に富田山公園再整備事業が実施されている。2022 年には老朽化に伴い解体した尾西グリーンプラザ跡地に民間の指定管理者によるグランピング施設がオープン、市内の 20 代を中心に集客している。また 2023 年にはあらゆる世代が楽しめる都市型スポーツサイトとしてスケートパークが河川敷にオープンした。



富田山公園利用者数の推移

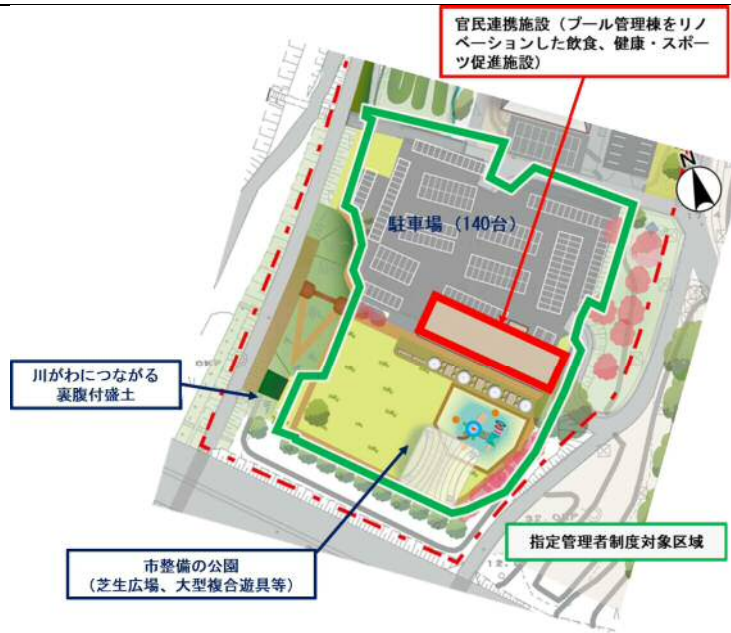


グランピング施設の利用者内訳



アスレチック公園の整備イメージ

- ・さらに、**尾西プール跡地**では施設解体と、かわまちづくりと一体となった**新公園整備及び民間企業の公募**が 2025 年から予定されている。この公園は親子づれを主な対象とし年間 8 万人以上の利用を想定した大型複合遊具、大屋根をもつ公園施設の整備が予定されている。公園には 140 台の大型駐車場があり、かわまち区域の利用者の駐車も想定している。
- ・プール管理棟については、指定管理者制度の活用を念頭に、民間企業の公募手続きが進捗しており、2025 年 2 月にサウンディングが完了、2025 年に公募が予定されている。現時点ではかわまちと関連の深い飲食、健康・スポーツ促進施設等が検討されている。また、サウンディングにおいて、複数の企業からは指定管理者制度にとどまらず、より幅広い区域の維持管理が提案されている。
- ・富田山公園南端では、新濃尾大橋が 2025 年 5 月に開通し、その周辺でアスレチック公園の再整備も計画されている。
- ・一宮西部地区かわまちづくりは、この富田山公園再整備事業との一体的な整備により親水性を活かした魅力的な野外レクリエーション空間の創出をはかることができる。



新公園及び官民連携施設 配置図



新公園の芝生広場イメージ



新公園の大型複合遊具イメージ

・整備工程

種別	事業者	事業内容	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
協議会	-	かわまちづくり計画の具体化・進捗管理	●かわまち申請（申請書提出） ●かわまち登録（承認）						
利活用促進	一宮市 他	社会実験の実施等による利活用の促進	利活用・整備イメージの共有、社会実験企画						
		都市・地域再生等利用区域指定		●都市・地域再生等利用区域承認					
富田山公園 付近	一宮市	芝生広場整備、遊歩道整備、階段拡幅、案内板の設置、トイレ改修他					整備		
	国土交通省	親水護岸		整備					
	-	整備後のモニタリング							

## 5. 多自然川づくりに関する事項

- ・護岸については、水理特性、護岸の洗堀や堤防の安全性、高水敷の利用、希少なワンドからの距離などを十分踏まえた上で、必要最小限の設置区間とし、生物の生息・生育・繁殖環境と多様な河川景観の保全・創出を図る適切な工法とする。

## 6. その他特筆すべき事項

### ◆社会実験

- ・かわまちづくりの検討にあたり、集客や収益の実現性、コンテンツ、施設整備の内容を検討するために平成30年から地元企業や協議会委員とともに社会実験やイベントでの利用調査等を行った。また市民WEBアンケート調査を行い、訪問経験のあるなしに分けて、ターゲット層を想定し、ソフト、ハード施策を検討した。以下検証結果等を示す。

### ○賑わい創出の可能性調査

#### ◆ミズベリング138フェスタin富田山における賑わい創出可能性調査

調査日：平成30年10月13日（土）

調査場所：一宮市富田山公園対象地域内

調査対象：参加者522名、参加事業者7社

8種類のプログラムを開催し、賑わい創出の核となりうるアクティビティについて、利用者ニーズや事業者の参加意欲、収支等を検証し、踏まえて富田山公園再整備事業ではグランピングやシティスポーツの施設整備を実施した。

なおウォータースポーツについてはニーズは高いが木曽川への入水場所の整備が必要であったため、事業には反映されていない。



オープンカフェ・熱気球体験



青空ボクシングフィットネス



サイクリング体験



SUP



ラフティング



BBQ&グランピング体験

## ○親水空間利用の意向調査

かわまち対象地周辺の堤内外地で開催されたイベントにおいて、親水空間の利用に関するニーズ、課題等について対面でアンケートを行った。

### ■びさい夏まつりにける親水空間の利用調査

調査日：令和6年8月10日（土）  
 調査場所：一宮市富田山公園内及び河川敷  
 調査対象：びさい夏まつり来場者  
 アンケート調査：大人58票 子ども167枚

総参加者（10,000人程度）



堤内地（公園区域）

堤外地（河川区域）

## ○親水空間利用者のニーズ

・施設整備のニーズとしては水際でゆっくりできる芝生広場、川を眺められるカフェ・キッチンカーなど木曽川の水面をくつろいでみることができる施設の整備ニーズが上位を占めた。

### ■びさい夏まつりにける親水空間の利用調査

調査日：令和6年8月10日（土）

問：どのような施設があるとよいか？



### ■かしの木フェスティバルにおける親水空間の利用調査

調査日：令和6年11月9日（土）  
 調査場所：一宮市富田山公園地域内  
 調査対象：かしの木フェスティバル来場者  
 アンケート調査：116票

総参加者（1,500人程度）



### ■きそがわりパーサイドライドにおける親水空間の利用調査

調査日：令和6年11月24日（日）  
 調査場所：一宮市富田山公園前河川敷  
 調査対象：きそがわりパーサイドライド  
 親子自転車教室参加者  
 アンケート調査：大人42票 子ども21枚

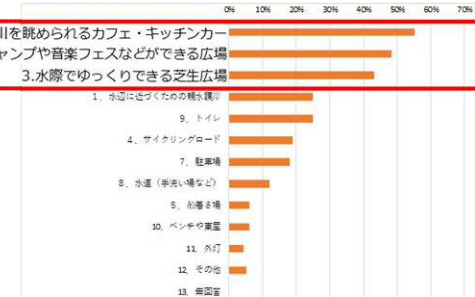
総参加者（親子 42組）



### ■かしの木フェスティバルにおける親水空間の利用調査

調査日：令和6年11月9日（土）

問：どのような施設があるとよいか？



### ■きそがわりパーサイドライドにおける親水空間の利用調査

調査日：令和6年11月24日（日）

問：どのような施設があるとよいか？



## ○親水空間利用者の感じる水辺空間の課題

河川区域の利用にあたっての問題点や課題では、**水際に草が繁茂しており水辺に近づけない、トイレ・手洗い場がない、整備休憩できる場所などが少ない**という意見が多く、**木曾川に近づくことができる河川施設及び休憩施設の整備が上位を占めた。**

### 問：利用するにあたっての問題点や課題



### ■びさい夏まつりにおける親水空間の利用調査

調査日：令和6年8月10日（土）

#### 問：利用するにあたっての問題・課題



### ■きそがわりバーサイドライドにおける親水空間の利用調査

調査日：令和6年11月24日（日）

#### 問：利用するにあたっての問題点や課題



## ○西中野渡船未来プロジェクト

### ■西中野渡船未来予想プロジェクトによる渡船活用調査

調査日：令和6年11月30日（土）

調査場所：西中野渡船場

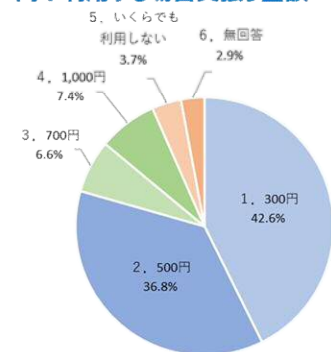
調査対象：西中野渡船未来予想プロジェクト来場者

アンケート調査：136票



- ・西中野渡船未来プロジェクトとして協議会委員である地元自治会と協力し、舟運の歴史を紹介するとともに、希望者は渡船に乗船するイベントを開催した。
- ・参加者に今後の渡船の存続についてアンケートしたところ、**西中野渡船の船着き場を残す**という意見が多く、次いで水辺拠点でも乗船できるとよとの意見があった。
- ・観光として存続する場合、300円～500円の利用料であれば利用してもよとの意見が8割近くをしめた。
- ・自由意見では**存続を希望する多くの意見**が寄せられた。  
「災害や救助のためにも役立つように船を守ってほしい」「観光資源としても十分たえられる場所だと思います」「小さい頃よく利用していたので、ぜひ残してほしい。木曾川の文化として残したい」「年に何回か（4回、春夏秋冬）イベントとしてつづけ残してもらいたいです。」「子どもが「お友だちと遊びに来て乗りたい」と言っていました。そしたら未来につながらないかな?と思います」

### 問：利用する場合支払う金額



## 〇きそがわりバーサイドライド

### ■サイクリングロードの利用調査

調査日：令和6年11月24日(日)  
 調査場所：木曽川沿川サイクリングロード  
 調査対象：きそがわりバーサイドライド  
 ロードバイクライド参加者 45名



- ・かわまち対象地区をロードバイクで走るイベントを開催し、走行後現況と課題、必要な対策についてアンケートを実施した。
- ・今後必要な設備として、**サイクルスタンド**が最も多く、ついでトイレ、ベンチなどの利用に関する施設が挙げられた。また道路の補修や整備、劣化した道路の補修なども必要な施策として挙げられた。

### ■インフルエンサーファンミーティング

調査日：令和6年11月24日(日)  
 調査場所：木曽川沿川サイクリングロード  
 調査対象：きそがわりバーサイドライド  
 ロードバイクライド参加者、  
 サイクリングインフルエンサー



- ・インフルエンサーのファンミーティングを行い、サイクリングロードの利活用促進について意見を交換した。
- ・周辺地域と協したライドイベント、初心者の参加できるレース、木曽川サイクリングロードを活用したスタンプラリーなどが活用施策案として挙げられた。
- ・案内板やWEBによる案内などの充実、富田山公園をサイクリングのシンボルとするスタート地点とするモニュメント、歩行者の横断箇所の明示などによる安全性の向上といった意見も寄せられた。

## ◆ミズベリング138

一宮市ではミズベリング138として平成29年度から河川管理者と連携したかわづくり・まちづくりをすすめ、富田山を拠点にさまざまなイベント・施策を市民とともに実施してきた。

### ■第1回ミズベリング138会議

日時：平成29年2月4日(土)  
 参加者：合計130名 公募、関係団体、官公庁  
 講演及び 水辺の未来図作成ワークショップ

#### ワークショップ

『水辺の未来図作成「木曽川のワクワクする水辺を創造しよう!」』

#### 自然・環境

- ・自然・環境の保全と持続可能な開発の実現
- ・水辺の環境を保全し、自然の恵みを受け継ぐ
- ・水辺の環境を保全し、自然の恵みを受け継ぐ
- ・水辺の環境を保全し、自然の恵みを受け継ぐ
- ・水辺の環境を保全し、自然の恵みを受け継ぐ
- ・水辺の環境を保全し、自然の恵みを受け継ぐ
- ・水辺の環境を保全し、自然の恵みを受け継ぐ
- ・水辺の環境を保全し、自然の恵みを受け継ぐ

#### レジャー

- ・水辺の環境を保全し、自然の恵みを受け継ぐ
- ・水辺の環境を保全し、自然の恵みを受け継ぐ
- ・水辺の環境を保全し、自然の恵みを受け継ぐ
- ・水辺の環境を保全し、自然の恵みを受け継ぐ
- ・水辺の環境を保全し、自然の恵みを受け継ぐ
- ・水辺の環境を保全し、自然の恵みを受け継ぐ
- ・水辺の環境を保全し、自然の恵みを受け継ぐ
- ・水辺の環境を保全し、自然の恵みを受け継ぐ

#### スポーツ

- ・水辺の環境を保全し、自然の恵みを受け継ぐ
- ・水辺の環境を保全し、自然の恵みを受け継ぐ
- ・水辺の環境を保全し、自然の恵みを受け継ぐ
- ・水辺の環境を保全し、自然の恵みを受け継ぐ
- ・水辺の環境を保全し、自然の恵みを受け継ぐ
- ・水辺の環境を保全し、自然の恵みを受け継ぐ
- ・水辺の環境を保全し、自然の恵みを受け継ぐ
- ・水辺の環境を保全し、自然の恵みを受け継ぐ

#### 飲食

- ・水辺の環境を保全し、自然の恵みを受け継ぐ
- ・水辺の環境を保全し、自然の恵みを受け継ぐ
- ・水辺の環境を保全し、自然の恵みを受け継ぐ
- ・水辺の環境を保全し、自然の恵みを受け継ぐ
- ・水辺の環境を保全し、自然の恵みを受け継ぐ
- ・水辺の環境を保全し、自然の恵みを受け継ぐ
- ・水辺の環境を保全し、自然の恵みを受け継ぐ
- ・水辺の環境を保全し、自然の恵みを受け継ぐ



SAUNA&BBQ  
リーフレット



SAUNA&BBQ  
みんなで記念写真撮影



屋外で食べるご飯は美味しい!



ミズベでいぬ部  
犬だっ一緒に川辺で遊びたい!



ミズベでいぬ部  
リーフレット

### ■第2回ミズベリング138会議

日時：平成30年2月3日(土)  
 参加者：合計148名 公募、関係団体、官公庁  
 講演、プレゼンテーション

## ◆市民 WEB アンケートからみるターゲット層

### ◆訪問経験あり

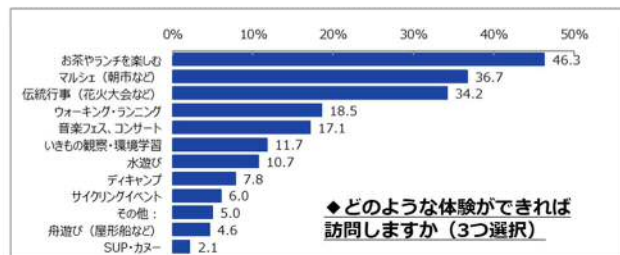
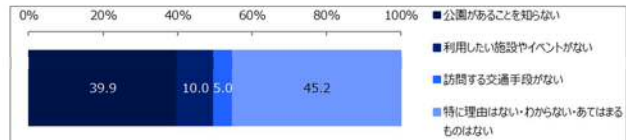
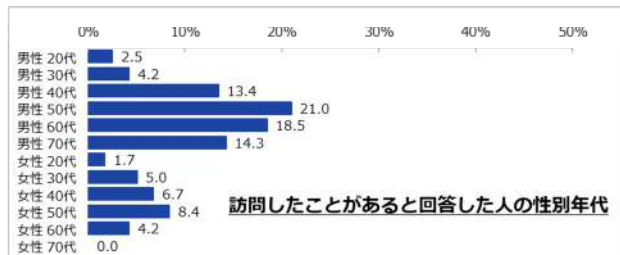
河川敷や富田山公園を訪れたことがある人は、かわまちの整備をすることで訪問を2倍程度増やすと回答した。年代・性別をみると訪問経験があると回答した方は男性、40代～70代以上がより多く、ウォーキングやランニングを楽しんだり、花火大会、お茶、デイキャンプをしてみたいと考えている。

ターゲット1：現在訪問してる中高年層→より使いやすくなるよう、歩道・移動経路の整備するとともにイベントを充実

### ◆訪問経験なし

河川敷や富田山公園を訪問したことがない人に理由を聞いたところ、公園があることを知らない、特に理由が無いが8割程度であり、交通手段とした人は5%であった。どのような体験ができれば訪問するかという質問では、お茶やランチ、マルシェ、伝統行事、などが挙がった。訪問したことが無い人は男性より女性が10%程度多かった。20～30代は回答数が少なく関心が低いと想定された。

ターゲット2：女性・若者→利用したいコンテンツの充実と宣伝・周知活動を行う  
※潜在的なターゲット



維持管理計画書

1. 継続的な有効利用に関する計画

- ・水辺空間の日常づかいと交流の促進  
河川区域で日常の利用、立ち寄りにつながる交流を促進する日常づかいのコンテンツ（カフェ、ドッグラン、ラン・ウォーキング、サイクリング等）を発展及び新規整備し、富田山公園と連動して利用を図ることで、日常的な利用者を増加させる。
- ・水に関する文化を育む活動推進  
親水空間と公園からの遊歩道を整備し、公園内の施設と連動した環境学習や親水体験を提供することで、公園利用者の河川区域の利用も促進する。
- ・水辺の公共空間を活用したイベント促進  
尾西商工会が開催しているびさい夏まつりを継承、発展させるとともに、都市・地域再生等利用区域の指定により、ライブイベント等あらたなソフト事業を開催し、地域のにぎわい増進に寄与する。

2. 維持管理計画

- ・施設の維持管理については、施設管理者が行う  
：国土交通省（親水護岸）  
一宮市（高水敷の芝生公園、遊歩道、堤防側の階段 他）
- ・将来的には富田山公園とも連動した指定管理者制度の導入を想定している。
- ・日常的な施設管理、清掃等については、施設利用者や市により実施するものとする。
- ・現在はかわまちづくり協議会委員を中心に2か月に1回自主的に清掃活動が現在行われている。FUNFANの会やKISOGAWA FAN CLUBなどでも川を楽しむ活動のイベントの一つとして発展的に実施する。



サイクリング利用者を中心とした定期的な清掃活動